

令和2年度 事業報告

法人事業概要

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、生活様式が一変するなど、これまでに経験したことのない1年となりました。

マーシ園では、国県市の補助を受け、各施設において感染防止のための備品や消耗品等を順次整備するとともに、職員に対し新しい生活様式の徹底、職員研修や各種会議をリモート形式で実施するなど、法人挙げて感染症対策に取り組みました。利用者やそのご家族の皆様にとっても、各種行事の中止や見直し、外出・外泊・面会の自粛など、我慢の一年となりましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで、感染を防ぐことができました。

7月には、福野地域における新たな事業拠点となる「なんと共同作業所」が竣工し、1月にはヘルパーステーションも入居しました。新しくそして広くなった施設で、利用いただく皆様が社会へ大きく羽ばたいていただけることを期待しながら、心の通う福祉のまちづくりの一翼を担うため、職員一同全力を傾注してまいります。

また、年度末には「ローカルな総動で孤立した人と地域をつなぐ」をテーマとした休眠預金活用事業の事業採択を受けました。引きこもりや精神障害があり、孤立状態の人に社会参加の環境を創るために、市内の様々な関係機関や住民団体とともに、約2か年間積極的に取り組みます。

現在もなお新型コロナウイルスの感染拡大は続いており、まだまだ収束の気配は見えませんが、今後も利用者、役職員が心を一つにして「マーシ園の新生活様式」の定着に努め、利用者の皆様から「選ばれる法人」であると共に、多くの人材に働きたいと思われる施設となるように魅力ある職場づくりを進めてまいります。

法人財務状況

令和2年度は、前年度に引き続き、安定した経営を行うことができました。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額 439,170 千円、土地、建物、備品等の固定資産総額 1,141,177 千円で、資産合計は 1,580,347 千円となっております。

負債の部は、流動負債総額 68,621 千円、固定負債総額 27,140 千円で、負債合計 95,761 千円となり、差し引き純資産は 1,484,585 千円で、前年度末比 107,487 千円増となりました。

事業活動による収支では、特に感染症防止対策として、八乙女や木の香において利用者の皆様に外出・外泊の自粛を要請した影響もあり、障害福祉サービス等事業収益が増加し、法人全体でも、好調であった前年度を上回る結果となりました。また、就労支援事業収入いわゆる授産製品の売上げにおいても、新型コロナウイルスに対応したマスクやアクリル板等で売上げが増加したほか、ペイペイによるキャッシュレス決済も導入しました。

施設整備の面では、なんと共同作業所の竣工の他、八乙女の給湯ボイラーの増設と機械室のアスベスト除去工事、停電時に備えた自家発電設備整備、木の香における非常照明機器の取替工事など、特に防災・災害対策を強化しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策のための各種備品等整備の他、八乙女に隔離用のコンテナハウスを整備し、感染症に強く、快適で安全な施設づくりに努めました。